

CASE 3

新型食品加工機械を導入し生産能力向上、事業分野を拡大

株式会社 七星食品 (業種：食料品製造業)

昭和26年高松市内で創業し、昭和40年法人設立、昭和51年に現本社にあるさぬき市へ移転。

所在地：さぬき寒川町石田西721 電話：0879-43-3590 URL <https://shichisei.co.jp/>



会社概要

- ・豚肉の生産から出荷までの一貫生産（生産・育成→カット処理→食品加工→営業・流通）を行っている。
- ・香川県内外に工場、農場、営業所を持ち、中四国エリアのスーパー、精肉専門店中心に納品しているほか、「オリーブ豚」などの高品質ブランド豚も飼育している。



補助金を活用した取組内容

- ・自社加工商品の一つである「ソーセージ」を製造する過程で必要な「燻製」を担う新型機械設備を導入し、主力商品の一つとして生産量・売上を拡大させる。

補助金の活用にあたっての参考ポイント

- ・老朽化した設備を一新し、これまで製造出来ていなかった高付加価値商品を作りたかった。
- ・商品開発を行うことで、新規取引先を開拓し、今後の事業拡大を図るための設備投資の一助となった。

将来の成長に向けた展望・意気込み

- ・現在の製造業を取り巻く環境は、グローバル競争の激化、サプライチェーンの混乱、そして深刻な人手不足などかつてない課題に直面している。
- ・しかし、私たちはこれを単なる危機としてではなく、成長を加速させる最大の機会と捉えている。

導入した設備等の概要

スモークハウス



導入前・課題等

既存設備の老朽化とオペレーターの常駐が課題

- ・老朽化が進み、軽微な故障も増え、その都度メンテナンス作業のため、製造ラインの休止も余儀なくされていた。
- ・手作業の操作も必要だったため、オペレーターの常駐が課題となっていた。

参考：プロセスセンター部門の様子



効果・成果

導入後・改善・効果等

多能工化の実現！増産体制の整備！

・新型設備



- ・新型設備は、機械操作が全自動で、オペレーターの常駐も不要になるため、他の製造ラインの補助にも回れ、多能工が実現できる。
- ・この効果により、ソーセージ製造部門での売上が、年間30%程度の増加が期待できる。
- ・加工商品は利益率も高く、今後注力していきたい事業である。